

様式第2号（第9条関係）

会 議 録

会議の名称		令和4年度第2回ふじみ野市行政評価外部評価委員会			
開催日時		令和4年9月29日（木） 開会時刻 午前 9時30分 閉会時刻 午前11時55分			
開催場所		ふじみ野市役所 本庁舎3階 A301会議室			
出席した者の氏名		役職名	氏名	役職名	氏名
		委員長	木村 浩則	総務部長	米村 芳一
		副委員長	原田 晴男	危機管理防災課長	武井 克裕
		委員	大平 聡男	上下水道課長	高橋 昌巳
		〃	嶋 健司	市民活動推進部長	本橋 直人
		〃	添田 浩志	協働推進課長	村田 頼信
		〃	瀧口 詠子	文化・スポーツ振興課長	吉村 敏世
		〃	濱田 明彦		
会議の議題		(1)【施策5】生きがい-市民のみんなで学ぶ、地域で学ぶを推進します-（市民活動推進部） (2)【施策7】スポーツ-スポーツを通して市民が元気にいきいきと暮らすことのできるまちを目指します-（市民活動推進部） (3)【施策34】防災-危機管理体制の整備と災害に強いまちづくりを進めます-（総務部）			
会議の公開又は非公開の別		公開			
会議の非公開の理由		-			
傍聴人の数		0人			
発言の内容		別紙のとおり			
会議資料	○次第 ○外部評価シート ○委員質問に対する回答票 ○令和4年度会議スケジュール				
事務局		総合政策部 経営戦略室			
議事の確定	確定年月日	令和4年 月 日			
	記名押印	役職名 委員長 ㊟			

別紙
会議内容
1 開会

2 【施策5】生きがい-市民のみんなで学ぶ、地域で学ぶを推進します-

<主な質問等>

○市職員が行う出前講座と生きがい学習とは別のものになるのか。

⇒市職員が講師となって日常生活に関するテーマで講義を行うものが、生きがい学習まちづくり出前講座である。昨年度は環境課の講義や危機管理防災課、高齢福祉課などの職員が講師となっている。それに対して、生きがい学習ボランティア派遣という制度があり、これは市民の方が講師となって講座を行うものとなっている。ヨガやアートなどがテーマとしてある。

○この施策に限らず全般的な話になってしまうが、各施策において定めている目標値については、どのような手段や根拠で設定しているのか。

⇒各課において所管している施策に関する現状及び課題をまず整理し、その課題を解決して目指すべき姿（施策目標）を考えた。そして、その施策目標を達成するためにはどのような取組を行うことが必要かを検討し、その取組の有効性を検証できる適切な指標を検討した。取組や指標を検討する際には、公的機関の研究データや国・県の同種の施策におけるものを検討材料とした。指標の設定の際には、過大・過小な値とならないよう、きちんと取組の有効性を測ることができる値となるよう議論を行った。

○施策評価シートを見ると、支出に対して収入が同額で充てられており予算に対する支出の割合が見えず、事業のコスト評価ができないように見受けられるが、いかがか。

⇒収入の表記については、支出のうちどれだけが国からの交付金などの特定財源で賄われており、どれだけを市税などの一般財源から支出しているかを示すものとなっている。また、シート上、事業のコスト評価はできない形となっているが、コロナで実施できなかった事業については記載があるため、他の年と比較して推移を図ることはできるようになっている。

○子ども大学の参加者が定員に満たない状況であるが、その原因についての分析は。

⇒夏休み期間中に実施しているところであるが、夏休みの期間が短くなったことや、家族での予定に左右されるということがあると思う。今年は埼玉りそな銀行さんやイオンタウンさんとも協力し、少しタイミングをずらして開催したが定員に満たなかったため、引き続き色々と工夫をしていく。

○周知の仕方はどのようにやっているのか。

⇒市報に掲載するとともにポスターを貼っている。また、対象が小学校4～6年生であるため、学校を通じて各家庭に周知していただいている。

3 【施策7】スポーツ-スポーツを通して市民が元気にいきいきと暮らすことのできるまちを目指します-

<主な質問等>

○「週1回以上スポーツをする19歳以上の市民の割合」について、令和元年度の30.9%に対して、令和2年度以降の上昇幅が大きすぎる気がするが、統計の取り方などはどうなっているのか。

⇒令和2年度以降、アンケート項目の文章を修正したことによるものと考えられる。アンケート対象も無作為に抽出した市民でないため、対象・方法とも適切でなかったと考える。スポーツに関しては、現在第2期ふじみ野市スポーツ推進計画を策定しているところであり、その中で指標設定や指標の捉え方について反省点を活かして検討していく。

○学校体育施設開放事業について、平日は午後5時30分から午後9時30分まで、土日祝日については午前8時から午後9時30分までとなっているが、どのような方が利用されているのか。

⇒バレーやダンスなどを行う団体の方々が利用されている。ほぼ毎日予約がいっぱいの状況である。

○ふじみ野市は機械ジムの機材が市民人口に対して少ないと思う。三芳町には立派な施設がある。三芳町には民間のジムが少なく、ふじみ野市には民間のジムが多いというところもあるかもしれないが。

⇒ご指摘のとおりである。今後要望が多いようであれば検討を行うかもしれない。

4 【施策34】防災-危機管理体制の整備と災害に強いまちづくりを進めます-

<主な質問等>

○自主防災組織の組織率がずっと100%となっている中で、新たな指標の案として地区防災計画の策定数があがっているが、これはどのようなものか。

⇒地区防災計画については、それぞれの組織で避難経路や備蓄物品についてまとめたものとなっており、自主防災組織ごとに作成するものである。計画については、現状58組織中12組織において作成されている。この計画の作成数は、地域における防災活動の進展を測る上で有効な指標と考えるが、市からの働きかけだけでなく、地域として主体性をもって取り組むことが必要であるため、自主防災組織の構成員の高齢化等の問題がある中では難しい部分もある。しかし、市としては積極的に策定支援を行っていきたいと考えている。

○消防団員については、指標では120名程度が目標値になっているが、その

くらいいけば十分なのか。

⇒消防団員については、定数が135人となっている。定数まで集めたいが、現在は114人となっており、各分団の所属人数にもばらつきがある状態。機能別消防団の方のご協力をいただきながら現在はやっている。

○ハザードマップについて、今後激甚化する災害に対応する形で作り直す予定はあるかという点は、国県の実施・公表したデータに基づいているため難しい旨を了解した。今後被害の拡大が想定される地域に居住する者に対する被害の軽減策等を検討しているか。

⇒過去の浸水発生実績をもとに内水ハザードマップというものを作成しており、それを基に雨水貯留浸透槽や調整池の整備を進めているところである。

○昼間に浸水地域で災害が起きた場合、近隣にあまり若い人がいないため、対応が困難になると思われる。日中に災害が起きた場合でも、地域の人が消防車を動かしたりできるような体制を整備しておけると良い。

○消防団報酬の不正問題について、ふじみ野市としては適切に取り扱われるよう指導を行っているとのこと。補足で何かあれば聞きたい。

⇒消防団の報酬については、個人口座へ支払いを行っている。不正問題については国からの通知も出ており、本市としても入間東部地区事務組合に話をして分団長会議の中で周知をしてもらっているところである。今後も状況を注視していきたいと考えている。

5 その他

6 閉会